



喫煙者における気道樹状細胞上の機能関連表面分子

KEYWORDS// 喫煙, 樹状細胞, 気管支肺胞洗浄液, ケモカインレセプター

気道 DCs (dendritic cells : 樹状細胞) は吸入粒子に対する肺免疫応答を制御している。しかし, 喫煙者の気道 DCs 上の機能関連表面分子については知られていない。著者らは four-color サイトメトリーを用いて喫煙者と非喫煙者の気管支肺胞洗浄液 (broncho-alveolar lavage fluid ; BALF) 中の骨髓 DCs (mDCs) 上で機能関連表面分子を分析した。さらに, 全参加者の肺機能は, 気管支鏡検査前に直接評価した。喫煙者の BALF 中の総細胞数は, 非喫煙者に比べて 7 倍増加していた。BALF 中の細胞の mDCs の割合と mDCs 上の成熟マーカー CD83 の発現は喫煙者と非喫煙者間に差はなかった。しかし, 喫煙者の mDCs 上の lan-

gerin および CD1a の発現は著しく増加していた。さらに, 喫煙者の mDCs には CD80 や CD86 といった抗原提示マーカーの発現増加が見られた。一方, 喫煙者の mDCs は非喫煙者に比べて CCR7 の発現低下を示した。CCR7 の発現低下は喫煙者において特に気道閉塞および肺深吸気と関係していた。今回の研究結果は喫煙が気道 mDCs 上の機能関連表面分子の発現状態に影響することを示唆していた。

(Bratke K, Klug M, Bier A, et al : Function-associated surface molecules on airway dendritic cells in cigarette smokers. *Am J Resp Cell Mol Biol* 38 : 655-660, 2008)

(埼玉県立大学保健医療福祉学部 鈴木優治)